

# 第20回NIE全国大会秋田大会

# 批判的思考力 育む

## 子ら「言葉の力すごい」

### 秋田大学教育文化学部付属小

小中学生の学力が全国トップレベルの秋田県で7月30、31日、新聞を使った教育の進め方を考える第20回NIE全国大会秋田大会が開かれた。スローガンは、「問い」を育てるNIE。思考を深め、発信する子どもたち。初日は講演や討論があり、「21世紀型学力」としての批判的思考力の重要性や、秋田のNIEで深い学力が養われる理由を明らかにした。2日目の公開授業では、新聞を基に随所で「問い」子どもの姿があり、特別分科会は学力向上と新聞活用を議論した。沖繩から参加した教育関係者は児童、生徒の主体性や多様な実践に目を惹き、「沖繩にも『問い』や批判的思考力を育む潜在力がある」と意欲を高めた。教育面では16日付から7人の感想を詳報する。



で、読解力や判断力を磨き、情報の受け手・送り手としての能力を高める素地づくりが狙い。

秋田大学教育文化学部付属小の公開授業では、5年生が国語の授業として、サッカー女子W杯についての全国紙2紙の記事を比較した。同じ出来事でも視点が違えば伝え方が変わることを知り、各記者が何を伝えなかったか分析すること



## 2紙読み比べ 読解・判断力磨く

同じ出来事異なる切り口で書いた記事を読み比べ、記者の意図について考えた。秋田大学教育文化学部付属小の授業11秋田中にきわい交流館付

初戦勝利について、一方の記事は「戻ってきた粘り強さ」と評価中心、他方は「手薄なサイド」など課題に焦点を当てた。ある児童は後者の記事を「前回優勝しているからもうとどけるから、3-0くらいで勝たないか」とため息という意味では「とどける」とは違う形で表現された「期待」を読み取った。

まためでは「記者の気持ち、(何が)ユースか」という基準によって記事の内容が変わることを実感した。それが言葉によって分かるので、言葉の力はすごいと思った」との感想があり、新聞を通じて思考を深めたことがうかがえた。

## 教師が交流する場設けたい



甲斐崇・県立総合教育センター研究主事(NIEアドバイザー) NIEを広げるにはボトムアップが大事。教員が気軽に集まり、情報交換できる場を設けたい。沖繩には子どもの批判的思考力を育む潜在力があり、引き出すにはまず大人が問いを持つ必要がある。

## 土台になる知識を教えたい



佐久間洋・比屋根小教諭(NIEアドバイザー) 大学付属小と市立小の公開授業はともに児童の探求心が強く、秋田県全体で学習意欲が高いと感じた。21世紀型学力で重要な批判的思考力は、沖繩の子も習得できる。まずはその土台となる知識を教えたい。

## 親の参加促す講座開きたい



石川美穂・興南高教諭 進路をテーマにした高校の総合学習の公開授業を見学し、生徒が日々新聞を読んで学力の土台にしていると感じた。新聞を読む習慣を付けるには家庭への働き掛けも大事。学校の地元で住民向けのNIE講座を開き、保護者に参加を促したい。

## 雰囲気づくりにも教師の力



松田美奈子・美東中教諭 小学社会の歴史新聞づくりの公開授業を見た。載せる題材を自分で探し、グループでその評価を議論する中で、必要な情報を児童自身の目でつかみ取っていた。いきいき発言できる授業の雰囲気づくりでも教師のスキルの高さを感じた。

## 県参加者の声

## 学力分科会

大会2日目の特別分科会「学力と新聞活用」では、文部科学省の全国学力調査でトップレベルを保つ、秋田県と福井県の市町立小中学校の教師4人が実践

を報告した。NIEが子どもの思考や社会との関わりを深めたという成果をはじめ、家庭や低学年での取り組み、新聞を教材化する工夫など、多岐にわたって意見を交わした。授業で話し合いを重視する一方で、目標を児童や生徒にどう明示するかという課題も上がった。



### 佐藤整さん

秋田県田代中教諭(国語科)

法整備の段階から賛否両論があった裁判員制度を伝える各紙を、2年生が読み比べた。社会科と違って賛否を論じるのではなく、生徒が自分の考えを持つための前段階として、記事の事実と意見をベンで色分けして徹底して読み分けた。事実の取り上げ方や遠回しな表現から各紙の見解の違いを讀み取る。記事の読み比べは、21世紀型学力で重視される主権者教育につながる。



### 無量小路宗洋さん

福井県武生西小教諭(社会科)

高学年ではNIEのワークシート自体を親子で作っている。子どもは興味のある記事を事前に選び、週末に親と一緒に3-5問を考える。児童には「答えが一つじゃない問題を1問は用意しよう」と呼び掛けている。同級生の作ったワークシートを毎日4枚ほど家で解き、翌朝に答えや意見を班で話し合っている。



### 津島穰さん

秋田県五城目第一中教諭(社会科)

1年の社会科で秋田県の人口急減予測を報じた地元紙のグラフを使った。生徒は問題点を読み取り「学校の統廃合が進む」「空き家が増え老朽化する」と将来の影響を予想。歯止めを班で話し合い「県外の人に秋田の良さを伝える」「Uターンを増やすため雰囲気良くする」と発表した。



### 中谷幸子さん

福井県豊小教諭(国語科)

4年生は社会科で、福井県で舞鶴若狭自動車道が開通した影響を考えるため、地元紙の記事10本を受け取った。記事を全部読むのは難しいが、見出しや前文、写真を見て自分たちで「交通・観光・環境・行事」という4つの視点を見つけて分類しタイトルを付けた。児童が答えのない中で自ら情報を整理、比較して考えを練り上げるための「思考の道具」として私たちは新聞を使った。その道具の一つが「Xチャート」と呼ぶ4分法分類がうまくいかなかった場合は、子どもが自分で視点を考えて再挑戦する。こうして舞鶴若狭開通という一つの出来事を多面的に見ることができた。

## 到達度・変化探る短作文



### 八郎潟町立八郎潟中

八郎潟町立八郎潟中学校2年生31人は、「東北六魂祭」開幕を伝える秋田新聞号外の記事と写真に、自分たちが考えた見出しをつける公開授業をした。志田裕子教諭が指導した。

## 記事・写真から考えて発表

写真を読み込んで八つのグループごとに見出しの案を考え、公開授業で「六魂祭、ついに開幕」共に「一歩ずつ前進」「東北六魂祭開幕/みんな笑顔」「復興願(う)復興に込めた東北魂」など、それぞれ発案した。各グループは「待ちに待った気持ちを『ついに』という言葉で表した」「東北が復興を願う一つになっていることを伝えたかった」「復興へまい進という文中の言葉を『前進』という言葉にしたい」と見出しに込めた意図を説明した。



### 秋田県立雄物川高

秋田県立雄物川高校3年生32人は工藤裕史教諭の指導で、新聞切り抜きを基に自分の将来を考え、ワークシートに書き出してグループごとに意見交換する公開授業をした。

## 切り抜き基に将来像描く

同校では3年前、NIE実践校指定を受けたのを機に、全生徒に日々の新聞切り抜きに取り組みさせ、「パスカルタイム」という時間を使い意見交換する実践を積み重ねてきた。

## 答え一つでない問題作る

## 自ら視点を見つけて分類